歴史的景観都市シンポジウム'96

『歴史が織りなす ひとまち そして明日』

平成八年十二月三日、金沢市文化ホールで、北里敏明京都市副市長（元石川県商工労働部長、同総務部長）と山出保金沢市長が対談しました。森俊偉金沢工業大学建築学科教授のコーディネートで進行し、約百五十名の方が参加されましたが、熱心にメモをとる姿もみられ、市民のまちづくりに対する関心の高さがうかがわれました。

北里敏明　京都市副市長
「保存・再生・創造のまちづくり」

歴史的景観都市トップ会談

歴史都市の都市格を考える

森●本日は、両市の長期的な都市戦略、現在行っている具体的な市景観施策、そして住民参加の三点に絞ってお話を伺いたいと思います。まず、第一点目の二十一世紀に向けた長期的な都市戦略についてお話し下さい。

北里●京都は、川と山に囲まれた豊かな自然、建都千二百年という古い歴史、そして人口百四十六万人を抱える近代的な大都市であるという大きな三つの特徴があります。ですから金沢も同様だと思うのですが、保存と開発の両立が大きな課題となります。

そのために、私どもの桝本新市長は「元気な都市京都をつくろう」を基本哲学として、具体的には「ひと、もの、まち、産業、そして文化」という五つの元気策を打ち出しており、まちについては市内を三つのエリアにわけ、それぞれ「保存・再生・創造のまちづくり」をめざしています。

山出●金沢は、規模からいっても歴史の長さからいっても京都に及びません。ただ、「歴史に責任を持つべきまち」だという点は共通していると思います。従って、京都と同様に、伝統と創造、保存と開発の調和が大きな課題です。

私は、金沢の特色は歴史的な遺産、遺構、緑、そして用水に代表される水だと思っています。これらを守るための条例を制定したり、仕組みを整えてきましたが、さらに廃地の緑の保全についても研究をすすめ、金沢の独自性を保っていきたい思っています。

まちづくりの面では、守るべきところと、開発すべきところを区分することと、そして文化の面では絶えず新しいものを加えていくことが大切だと考えています。

森●保存と開発のバランスを図っていくという点が両市に共通するところですね。次に、二点目の都市景観施策の個々の特色と課題、将来展望等について、関連する条例等を踏まえて、お話し下さい。

山出●金沢市では全国に先駆けて昭和四十二年に伝統環境保存条例を制定しました。この条例を発展させて平成元年に「景観条例」を制定し、その後「まちなみ保存条例」、「屋外広告物条例」、「用水保全条例」をつくりました。加えて斜面の緑を保全する仕組みも考えてみたいと思っております。多くの経験を経ませて、少しずつ進んでいるなと実感しています。息の長い取り組みが必要になってまいります。伝統的な環境を守っていかなければならない区域、そして開発を適切で新しい景観も創っていかなければならない区域、この双方を通じて風格のある都市景観を創ることが極めて大事だと思っています。

また、今後の大きな課題として、既成市街地、中心市街地のスプロール化、空洞化の進行があげられ、これが景観の面でも大変難しい問題を投げかけております。日本のまちづくりは郊外への拡散の方向へ進んできたわけですが、戦後五十年経過しまして、今後は拡散から都心への凝縮の方向へ変えていかねばならないと思います。中心市街地の活性化、さらに古いものの保全と防災対策との兼ね合いが、この二点が今後の大きなテーマだと思っております。

北里●山出市長もおっしゃったように、京都でも守るべきところは守り、都市景観を創っていくべきところは創っていくべきだと思っております。

緑地や、自然の部分を守る規制としては、「歴史的風土特別保存地区」という制度がありますが、清水寺などの従来の工リアに加え今回新たに三千院なども対象として、面積が倍増しております。また、東山・北山・西山といった三山のエリアを対象とした「風致地区」の規制についてもより厳しい条例改正を行いましたが、さらに、昨年市街化調整区域のほとんど全域を対象に「自然風景保全条例」を制定しまして緑地の保全をお願いしております。

一方、まちの中の規制については、「市街地景観整備条例」を制定しており、従来の美観地区の対象であった二条城や御所に加えて今回新たに旧市街地区における町家も規制の対象としています。

それ以外にもまちなみに応じて、「伝統的建造物の保存地区」、「界隈景観整備地区」、「沿道景観形成地区」などの規制も行っております。

森●両市ともにまちの細やかなエリアの性格と歴史的な文脈をしっかり捉え、それを二図にして保全と開発を図って行こうという姿勢であるということが良くわかります。それでは、次に、三点目の住民参加の問題について、それぞれお話をお願い致します。

北里●京都では町衆がまちを支えてきたという歴史と意識が根付いています。そこで、市民とともにまちづくりをするという考え方を基本に、例えばまちづくりを行う際、地区計画とか建築協定を締結したいという希望があるときには、都市計画等についての専門家を派遣する「まちづくりコンサルタント派遣」という制度を設けました。

また、先般風山でトイレを整備するに当たり、ワークショップという形で、周辺の住民の方、有識者の方、そして行政の担当者が一緒に話し合い、出てきたいろいろなアイディアを基本計画の中に取り込みました。こうした住民と行政がともに考えていく方式は、今後もいろんな地域で取り入れていきたいと思います。

上：京都・市街地より西山を望む
左：京都・産寧坂界隈

山出●金沢でもこまちなみ保存区域や長町を始めとして、そこにお住まいの皆様が住民参加という形で景観について真剣に考え、活動している団体がありこれからもご支援申し上げていきたいと思っております。

近年、景観に対する市民の方の関心が高まってきており、様々な苦言も聞かれます。そうした意見を行政は謙虚に聞いていくべきだと思っています。

ガルブレイス(※)の言葉に、「日本人は美術館をつくって美をめでることは知っているけれども道端の美は知らない」とあります。私も戦後五十年のまちづくりの反省として「美への配慮が足りなかった」と言いたいと思います。まちは市民が創る芸術品であり、市民一人一人の協力が欠かせません。より良い景観形成のために、究極には市民一人一人の感性や文化性を高める、そんな広い意味での施策というのも大切だと思っています。

森●両市に共通するのは、歴史的な要素がまちの中に非常にたくさん残っているということで、そういう要素をこれからの都市戦略にどう組み込んでいくかが問題だということだと思います。そんな点では京都市及び金沢市は全国的に先導的役割を担っていくことになるのではないでしょうか。

また、都市戦略を具体化するにあたって、両市とも非常に細やかな条例等をいろんな形でつくられてきているわけですけれども、そういう条例を執行していく上で、住民の方の協力が不可欠だというこも充分感じられたのではないかと思います。

本日は、どうもありがとうございました。

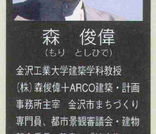
（※ジョン・ケネス・ガルブレイス：米国の経済学者。主著に「不確実性の時代」など）

右：金沢・台地斜面の緑と野田山
下：金沢・長町武家屋敷界隈

山出　保　金沢市長
「まちは市民の芸術品」

金沢らしいまちづくり

「歴史都市 金沢の景観」



森　俊偉（もり　としひで）
金沢工業大学建築学科教授
㈱森俊偉＋ARCO建築・計画事務所主宰　金沢市まちづくり専門員、都市景観審議会・建物部会委員　著書に「地中海のイスラム空間」丸善、「11の集落・外空間の構造」鹿島出版会。

金沢は日本ではめずらしく、江戸期以来の時の流れの表情を各所に留め、積層している街である。歴史的な建築物はもちろん、街のつくりや街並のつくりに、そして生活様式や生活作法についても各時代の形式を今に累積してきている。金沢の街の一番の魅力はこうした歴史的痕跡を重層した姿にあるといえる。

時間の流れの中で、人々の生活や文化の営みを反映し写し出したのが、都市の姿であり、まちなみの表情であるといわれる。歴史は、街に個性的な彩りを添え、それぞれの街の固有性を高める。街のアイデンティティを高揚するうえで、それぞれが育んできた歴史は大切な財産といえる。時の流れを紡ぎ、自らの記憶の中に生き続ける思い出と結ばれた街の風景に、人々は親しみを覚え、愛着を感じ、誇りを抱く。愛情と誇りを抱いて接しられる景観こそ真に大切といわれる所以である。

金沢での景観整えは、地形や自然風土、歴史や伝統文化、都市活動の特徴等、地域の特性を丁寧に細かく読み取り、これを景観文脈の整えと強化の下地として取り込んでいくことを、基本的な考えとしている。このように、歴史を重層した金沢の街の景観の整えや、金沢らしいまちづくりを図っていく上で、歴史的要素の保存・再生・創造の三つの都市戦略は、特に重要な役割を担っているといえる。ただ歴史的景観整備は、演出過剰になったり、表層の取り扱いのみに感心が置かれたものとならないよう注意が必要である。本来の歴史的景観の整えの意義は、先人が築いた生活文化遺産を引継ぎ、新たな価値を付加し育て上げていくことにあり、自分たちが誇れる街としてのアイデンティティを高めていくことこそ重要である。そして実生活を伴った歴史的環境の景観の整えには、そこに住まいする人々の理解と協力も不可欠である。

歴史の流れの痕跡が重層し息づいている金沢の街は、京都と共に、日本において歴史を基軸に据えた景観づくりやまちづくりができる数少ない都市の一つであり、歴史を活かし景観整備と都市づくりの先導的役割を果たすべき責務を担った都市ともいえる。都市は生きものであり、停滞することなく日々更新される。今まさに、歴史都市・金沢は、魅力的な新たな歴史の層を重ねつつ、先導都市としての役割を過確に果していくことを期待されているといえる。

『用水の街・金沢』の再生を目指して

金沢には、昔も今も変わらぬ用水の流れがあります。歴史の香る個性豊かなまちなみ、活気に満ちた繁華街、開静な住宅地の間を縫うように流れるせせらぎ、山裾の緑を映す水面、段丘をかけ下りる水音など、用水は金沢のまちなみに様々な表情を醸し出し、潤いとやすらぎを与えてくれます。

また、冬場の除雪や雨水の排水、時には消火用水としてなど、用水は今でも私たちの暮らしと深いつながりを持ち続けています。そんな用水を大切に守り、身近な生活環境をより快適で、より安全で、そしてより豊かなものとするために、昨年四月に「用水保全条例」が施行されました。

●用水の歴史と市民との関わり

金沢の用水は、藩政時代（一六〇〇年頃）から、先人たちの知恵とたゆまぬ努力により築き上げられてきました。これらの用水は水田の灌漑だけでなく、金沢城水の不足を補うために造られた辰巳用水や堀としても利用されてきた鞍月用水など、軍事戦略を目的として造られたもの、もともと川だったところを徐々に用水として整備してきたものなどがあり、その成り立ちはいろいろです。

また、城下の街中では、洗濯や打ち水、水遊び、雪捨てなどに利用され、染物洗いや水車を回す家内工業などの動力源として、また消火用水や延焼の遮断帯となる都市防災施設として使われるなど、市民生活において重要な役割を担ってきました。

さらに、家の庭に引き込み曲水として利用されたり、住民のコミュニティーの場としても親しまれ、夏にはホタルが飛び交う光景もみられるなど、豊かなくらしを育んできました。

このように市民生活と深い関わりを持ち続けてきた用水は、幸いにも戦災を受けなかった金沢に今も残されており、「森の都・金沢」とともに「用水の街・金沢」として全国に知られるようになりました。

●用水はいくつある？

市の中心部を流れる犀川・浅野川などを源とする用水は、平野部に網の目のように張り巡らされており、その数は五十六、総延長が一六六kmにも及ぶとされています。

●現在の用水

市民生活に潤いとやすらぎを与えてきた用水ですが、現代社会の移り変わりの中で用水環境も変化し、今日では様々な問題が生じています。例えば、

犀川から取水している代表的な用水
- 辰巳用水
- 鞍月用水
- 大野庄用水
- 泉用水
- 中村高畠用水
- 寺津用水
- 長坂用水

浅野川から取水している代表的な用水
- 中島用水
- 小橋用水
- 旭用水
- 金澤用水

※犀川から取水しているこれらの代表的な用水は「犀川七ヶ用水」と呼ばれています。

- **市街化の進展に伴う道路下への暗渠化**
- **無秩序な私有橋の架設と駐車利用**
- **都市排水路への移行**
- **河川の水量不足に伴う用水量の減少**
- **ごみの投げ入れによる環境悪化**
- **用水沿いで見かける動植物の減少**

などです。

中でも、必要以上に幅の広い私有橋は、用水の流れを隠してしまうだけでなく、まちなみ景観の阻害要因になっています。また、用水量の減少は、用水としての魅力を半減し、水生生物の生息にも悪影響を与え、さらに消火の水源や消融雪路としての利用、及び防災上の役割にも支障をきたしています。

●用水保全条例で目指すもの

条例では、「自然環境及び生活環境と調和した用水の保全、復元および創出を図り、年間を通じて清流を確保する」ことを基本方針として、特に保全を必要とする用水を保全用水として指定し、保全のための基準を定めることにしています。現在、以下のことを基本に「保全用水」の指定を考えています。

□保全用水の基本的考え方

- **金沢の歴史的財産として後代に継承すべき用水**
- **金沢の個性あるまちなみ景観を形成しうる用水**
- **金沢の自然環境と調和し市民にやすらぎを与える用水**
- **金沢の生活文化に密着した用水・金沢の都市防災上、必要と認められる用水**

第一次の保全用水として、市の中心部を貫流し金沢の特徴あるまちなみを形成してきた歴史的価値の高い、辰巳用水や鞍月用水、大野庄用水などが候補になっています。

●用水再生への取り組み

市の中心部を流れる鞍月用水などでは既に私有橋の狭小化をメインとした整備事業が行われています。この事業は、用水沿いの住民一人一人に用水保全の主旨を説明し、理解と協力を得ながら実施されており、まちなみ景観にも調和した潤いと賑わいのある用水環境が徐々に復元されてきました。

また、今後は年間通水確保のための基礎調査をはじめ、景観や水生生物の生息に配慮した護岸・河床の整備、消火用水として利用しやすくするための施設整備、用水を利用した親水ポケットパークの整備、さらに用水沿いも利用した歩行空間ネットワークの創出などいろんな立場の方々から意見をいただきながら、取り組んでいきたいと思っています。

●よりよい街づくりを目指して

どんなにすばらしい用水空間が造られても、ゴミなどで汚されそのまま放置されたのでは、魅力ある用水になりません。そのため、定期的な清掃が必要になります。これには用水沿いの住民だけでなく市民全員が、用水を守り育てるという意識を持つことが最も重要になります。

また、私有橋などの問題解決にあたっては住民の深い理解と協力が必要になります。これからも、市民の皆様とともに「魅力ある用水の街・金沢」を目指し、努力していきたいと思います。

親子で歩こう!!

金沢のまちなみ

伝統的な金沢の面影を残す尾張町、東山界隈。粋な建築意匠にあふれたまちなみには、昔の人の暮らしの知恵や、まちの調和への心くばりがあちこちに。小中学生の親子が、そうした"金沢のたからもの"にふれあいました。

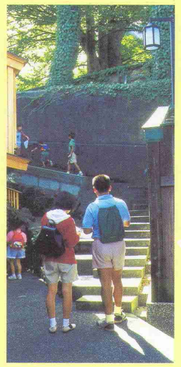
42組104名が参加

平成8年9月28日の第4土曜日、金沢市まちなみ対策課の主催で、「親子で歩こう！金沢のまちなみ」が開催されました。

当日は秋晴れに恵まれ、42組104名の親子が参加。「梅の橋近く、手をかざすとピュッと水のでる像は？」といった建造物やモニュメントに関する15問のクイズの答えを写真にとりながら、昔ながらの面影を残す"主計町茶屋街"、"新町町家"、"橋場町"、"並木町鎮花の道"、"観音町町家"、"ひがし茶屋街"の6つのゾーンを自由に散策しました。

ゾーン内には、まちなみにより親しめるようにと、8箇所の『おたずねポイント』が設置されました。そのうち、主計町、東の料亭組合事務所では普段は見られない芸妓さんの稽古場を見学できるとあって、参加者の人気を集めました。また、福嶋三弦店では、三味線を見るのも初めてという子供たちが、演奏に挑戦する姿も見られました。

三味線も初体験



大切にしていきたいこのまちなみ

この界隈をじっくり観るのは初めての参加者が多く、新しい発見を親子で楽しんでいました。

「道路に面した二階の窓に、柴垣の目隠しがあって印象的でした。玄関灯や植木鉢にも、周辺の人たちへの配慮とか優しさが感じられました。」（横山町在住の中学1年生とお母さん）など、参加者は一様に昔ながらのまちなみの温かさに感銘を受けた様子で、「このまちなみを大切にしたい」との思いを語っていました。